

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>運営者とスタッフ全員で自分たちの支援に対しての思いを出し合い、作り上げた独自の理念がある。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>理念は玄関、各ユニットの見やすい場所に掲示し、実践に生かされるよう努めている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p> <p>ご家族には入居前の重要事項説明時にお話しをしている。又、地域の方には家族会や運営推進会議への参加やアウル通信、事業所のパンフレット等を通し、理念やホームへの取り組み理解していただけるよう努めている。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>近隣の方とは積極的に挨拶を交わし、顔馴染みになる様に努めている。又、野菜やお花等頂いたり、夏祭りに声をかけ一緒に盆踊りを楽しんでいたたりなど付き合いの幅も少しずつではあるが広がってきている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>自治会に加入し、廃品回収や、子ども会の御神輿の際には入居者もお賽銭を入れて子供たちと触れ合ったりと交流する機会を多く持つよう努めている。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>電話での相談やホームに来られた方への対応などは担当スタッフにより行っている。事業者は地域の老人会等で講演会や学校等で認知症に関する講義やサポート養成講座を行い、認知症高齢者への理解を広める事に貢献している。さらに、運営推進会議を通し、市担当職員や民生員と共に地域高齢者の状況等について話し合い、取り組みを広げる様に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者が日常的に思いを伝えやすい環境作り、雰囲気作りを心掛け、意見や不満に耳を傾け、各スタッフ、管理者が情報を共有し、支援に反映している。又、玄関に苦情ボックスを設置している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	暮らしぶりについては面会時の報告や、月1回写真やコメントを載せたアウル通信を発行、送付している。又、預かり金の領収書を同封し支出入や残高の報告を行っている。その他、体調の変化があった場合など、その都度必要に応じて電話連絡を行っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約の段階で苦情やご意見の受付口を説明し、管理者が回答、検討し、苦情者への迅速な改善報告を行い、運営に反映させている。玄関先に苦情ボックスを設置しているが、直接スタッフへ話して頂けるような信頼関係を築く努力をしている。又、苦情を寄せられた際は、運営者を通し市担当者へ相談し、意見を頂くよう取り組んだり、外部機関の苦情受付の連絡先も入居契約書に記載、説明を行っている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の引継ぎ、月1回の全体会議やユニット会議等、日頃から意見、提案等話しやすい雰囲気にあり運営に反映されている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況や状態に合わせて勤務体制の確保がされている。又、状況に応じ勤務時間の調節が常時行えるよう全スタッフの協力、理解を得ている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	全スタッフがどちらのユニットでもスムーズに支援にあたる様に、日頃から行き来し環境作りを行い、又、朝の申し送りを全体で行う事で、両ユニットの入居者の状況が把握できるようになっており、離職、異動によるダメージを最小限に抑える配慮に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>それぞれのスタッフの段階に応じ、外部研修へ参加の機会が設けられている。又、月1回の全体会議やユニット会議等の施設内研修や外部から研修生を受け入れ意見交換を行うことにより、日々知識や技術の向上に努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>西胆振地域で構成するグループホーム広域連絡会に参加しており、管理者やスタッフが定期的に参加し勉強会、意見交換等行い、同業者との交流を通じてサービスの向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者はスーパーバイザーとしての役割を担い、スタッフの考えや行動を受け入れ理解されている。又、スタッフの精神的身体的状況に配慮しており、スタッフが気兼ねなく話し合える雰囲気と環境作りに努めている。その他、ユニット内の交流会や年数回の親睦会を開催し楽しみ、息抜きの場を設けている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>各自が向上心を持ち働けるよう日頃から助言、アドバイスを頂いている。又、資格取得、講習への参加の推進等のスタッフの意欲を支援する取り組みが行われている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人の状態確認も含めご家族、ご本人と面談を行い、不安や要望にしっかりと耳を傾け、ホームの内容の説明をリスク等も含め、理解、納得のいくまで話し合いを行っている。又、ホームの見学を行い雰囲気を感じて頂く等、関係性を築く機会を多く設けるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用前より面談の機会を多く設けご家族の思いや不安を把握し受け止め、自由に見学に来て頂きホームの雰囲気も触れる機会も設け、ご家族が安心できるよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>その時々のご本人や家族状況を聞き入れ、見極め、状況に合わせて他のサービスの利用も提案、紹介も視野に入れ対応を行っている。</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>少しでも不安が軽減された状態で入居していただけるよう、面談の機会を多く持つ、入居前にホームの見学の機会を設け雰囲気を感じて頂くなど人や雰囲気に徐々に馴染んで頂けるよう工夫している。又、入居後1週間程はご家族へその日の様子を電話にて報告し、安心して頂くと共に新たな情報交換へとつなげている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>共に生活するという思いのもと、出来ることを一緒にいき、感謝を忘れず、言葉にして伝え、人生の先輩として敬い、学ばせていただくという関係の中で、お互い協力し支え合い、楽しみを分かち合い過ごしている。</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>日常の様子や身体的な変化等、日頃の様子を報告を随時報告、情報の共有、情報の交換をすることで、ご家族が疎外感を感じる事無く、一緒に支えていく関係を築けるよう努めている。又、家族会を開催し楽しい時間を過ごす中で親睦を深めたり、月1回発行のアウル通信にて暮らしぶりを垣間見ていただく等工夫をしている。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>家族構成や状況に出来るだけ配慮し、双方の関係を踏まえた上でよりよい関係を保てるよう、自然体で支援できるように取り組んでいる。又、面会時は周囲を気にする事無く家族でゆっくりと話せるよう配慮する、スムーズに外出外泊が出来るよう常日頃の日常報告を密に行う、遠方のご家族には電話などを利用し連絡を行い心の距離が離れないよう配慮する等本人と家族との橋渡しとなるよう心がけている。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>面会時間の制限も無く、家族や知人が気軽に立ち寄れるような雰囲気作りを心がけている。いつでも連絡が取れるよう、面会時には面会簿に氏名、住所、電話番号を記入して頂いている。又、自宅へ行って草むしりや野菜の収穫をする、ご家族と自宅へ外泊する等、馴染みの場所も大切に考え体調を考慮しながら支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	時には入居者間で意見の食い違いや意思疎通が図れない場面もありますが、個々の病状の程度や相性を把握し、すぐに介入するのではなく入居者同士やり取りを見守り、状況を見極め介入し、それぞれが孤立しないよう支援を行っている。又、スタッフを通して生活の中に和が取れるよう、話し掛けや雰囲気、場面作りを行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後に他福祉施設、医療機関に転居、入院された状態にあれば、面会、お見舞いを行う等、関係を断ち切らないお付き合いを大切にしている。又、家族会などのお誘いをする、自由に遊びに来ていただくよう声かけを行う等、本人やご家族の心身状況を汲み取り、相談や支援に応じられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を聴くことを大切にしている。本人から直接聴くことが出来ない場合でも、どう思っているか、何を希望しているかと表情やしぐさから読み取るよう努力している。日頃より、本人の些細な言動をも見逃さないようにし、思いを汲み取り、自分だけでなくスタッフ全体で話し合い、感じ取り共有し、より本人の思いに近づく支援が出来るように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族に記入して頂いたライフヒストリー、センター方式シート、口頭でのお話しにて、ご本人の普段の生活内容や習慣、既往歴等把握し、それを元にスタッフ間でケアプランに活用し、入居後の生活環境に馴染めるよう活用している。又、随時本人、ご家族より情報を得るよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日頃からスタッフ全体で声を掛け合い、情報交換を密に行い、身体的精神的な状態や変化をアセスメントシート等に記録、本人の情報を総合的に把握し、対応できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日常生活の中の本人の言動、家族の要望、医療機関からのアドバイスを踏まえ、月1回のユニット会議において、ケアマネを中心にスタッフ全員で意見を出し合い、介護計画の作成を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	身体状況の変化に応じ医師や必要関係者からの専門的アドバイスを取り入れ、ご家族と相談して課題を明確にし、スタッフ全員で話し合い、プラン変更を検討し、その時々にあった支援を行えるように努めている。退院後には1週間以内にプランを見直し適切な監理のもと追加されたり新たなプランが追加されるなどしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ホーム独自のアセスメントシートに生活の様子、実践内容を個々に記載、その他処方箋や検査結果等を個別にファイリングし、常にスタッフ全員が確認できるように工夫している。又、入居者、スタッフ申し送り簿とアセスメントシート、口頭での申し送りとの平行活用にてより細やかな情報交換が出来、支援に生かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、ご家族方の要望や置かれている状況等に配慮し、状況に合った支援が出来るように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	SOSネットワークの利用により、警察、消防、民間タクシーなどの協力体制が得られている。又、防災訓練や運営推進会議、家族会等に、民政委員、自治会長、地域のボランティアの方に参加していただき、協力関係の構築に努めている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在は他のサービス利用は無く、出張美容室などインフォーマルなサービスのみ活用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在包括支援センター利用の対象者が居ない状況にあるが、指導員との情報交換は定期的に行われている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に既往歴やかかりつけ医を伺い希望に沿うようにしています。又、ホームの入居者全員が受診しているホームドクターからはご理解を頂いており、些細なことでも相談、指示を受けられる状態にあり、病状によっては往診にも応じていただける状況にある。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	ホームドクターによる定期受診及び、随時報告、相談を行い適切な診断を受けています。又、必要に応じ他の医療機関との連携を取っており、適切な治療が受けられるよう支援しています。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤で看護師を確保しており、日常的に健康管理を行っている。又、以前に契約されていた訪問看護ステーションとの繋がりが、ホームドクターなど気軽に相談できる状態であり、健康管理や医療活用の支援を行うことができる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院担当医師、主治医、ご家族と状態の確認、報告、相談を密に行うと共に、馴染みの関係を継続できるような精神面サポートを行い、出来る限り面会を行う等、医療機関との連携を取り、早期退院に向け関係作りに努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時ご家族に終末期ケアについての説明を行い、意向について承諾の確認は頂いている。又、病状に合わせ随時ご家族を交え主治医からの状態の説明も受けられるようにしている。運営者、管理者からホームでの出来るケア範囲を具体的に説明を行っている。	○	現在重度化の方は居ないが、終末期のあり方について、いつどのような時期に家族、ホームドクターとの話し合いを用いるのか話し合っていくたい。ホームと家族、ドクターが納得のいくまで繰り返し話し合う機会を設けるようにしていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホームドクターの協力の下、指示、指導、助言を頂き、重度化、終末期に「出来ること、出来ないこと」をスタッフ間で話し合い、状態の変化に備えて支援内容を検討し、医師へ報告、相談しながら支援できるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替えのダメージが最小限になるよう、十分な話し合いや情報交換を行っています。又、使い慣れた家具や飾り物、寝具等を用意して頂き、住み替えでの精神面の安定にも配慮しています。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>これまでの生活歴や性格を考慮し、個々の人格に応じた声かけや支援、対応を心がけ取り組んでいる。又、記録等個人情報は外部に漏れることの無いよう指導、管理されています。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人が理解しやすい、思いを表現しやすいような声かけを行い、表情やしぐさからも感じ取り、出来るだけ自ら意思決定がなされるよう配慮、支援されている。こたえを急がせず、待つ姿勢を大切にしている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>スタッフ側の都合にならず、食事方法、時間、場所、入浴時間、その他過ごし方等入居者個々の希望、生活ペースに合わせた支援をするよう心がけています。時間や1日の決まりは無く、ゆったりと生活を送れるよう努めています。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>その日の衣服は本人が意思決定出来るよう声掛け等行っています。又、自分で鏡を見ながら髪を整えていただく等身だしなみに興味を持っていたりするような支援を行っている。外出可能な方には美容室に出かけていただき、困難な方には出張美容師に来ていただいている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>旬のものを取り入れ季節感を味わって頂き、お誕生日、敬老の日、クリスマス等特別な日にはいつもと違う食事を提供し、食事そのものを楽しんで頂けるよう工夫している。又、入居者の能力に応じ、準備や後片付けを一緒に行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	特定の疾患が無い限りタバコ、飲酒は状態に応じ提供可能となっている。おやつ等も本人の好み、飲み込み状態、糖尿病などの疾患を考慮し提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来るだけ自然な形での併設が出来るように、一人一人の排泄パターンを把握、シグナルを察知し、トイレの声掛け、誘導を行っている。状態に応じ布パンツ、紙パンツ、パットの使い分けを行い、失敗による不快感や羞恥心に配慮した支援を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望のある方に対しては本人のタイミングで入浴できるよう声かけを行い、進んで入浴をされない方には、出来る限り気持ちよく入浴していただけるよう声掛けや誘導の仕方を工夫し支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間熟睡できず日中傾眠、倦怠感がみられる場合は短時間でも休息できるように臥床への声掛けや掛け物をかけるなど安心して休息できる環境を提供している。又、寝付けない入居者には安心してできるようにゆっくりと会話したり、温かい飲み物や軽い食べ物を提供するなど、その時々に応じた対応を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	洗濯たみ、台所仕事、庭仕事、掃除、動物の餌やり、散歩、カラオケ等、好きなことや得意なことをさり気なく提供し、スタッフや他の入居者と一緒に楽しみながら行えるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の希望や状態をご家族に相談し理解して頂き、金額を決め所持していただいています。又、希望に応じお金が使えるよう支援、又は、場面の提供をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	体調を見ながら、天気のいい日には中庭に出たり、散歩やドライブ、買い物に出掛けたりと、外の空気にあたる機会を作るよう心がけている。入居者からの外出の要望が無いことから声かけを行うことが多い。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日常会話の中から本人の要望を汲み取り、内容によってはご家族と相談し外出の機会を作っていたい。また、健康状態に応じ医師と相談して外泊も出来るように支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	事前にご家族に電話連絡が可能な時間を相談し、入居者本人からの要望があればすぐに応じられるように支援している。又、携帯電話を所持している入居者もいるが、使用方法がわからない為、着信履歴をスタッフが確認し、かけ直す様支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間や制限は無く、常に気軽に訪問できる様な雰囲気作りと声かけを行っている。又、ご家族と一緒に宿泊できるように寝具の用意をしている。ご本人が戸惑ってしまう時などはさり気なくスタッフが介入し、自然な状況で過ごされる様に支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ユニットごとにマニュアルを設置し、運営者、管理者より全体会議、ユニット会議などでしっかりと指導があり、人としての尊厳を心に決めて拘束の無い支援に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯の為施錠しているが、日中は施錠を行わず自由に出入りが出来る。スタッフは声をかけあい入居者の所在を把握し、自然でかつ安全に生活出来る様支援している。居室もプライバシー保護の為鍵がかかるようになっているが、自ら施錠を行う場合以外は使用することは無い。非常事態に備えスペアキーが各ユニットに用意されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	自然な声掛けや見守り、スタッフ間の声掛けにより入居者の状況把握、安全管理に努めている。夜間には、巡回時以外も些細な物音にも反応し、異常が無いか確認を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の管理能力に応じて見守り、回収を行っている。個人所有のもので、明らかな危険が予測される場合は家族との話し合いの上でスタッフが代理で管理し、必要に応じ貸し出し、使用の際は付き添いを行う等により危険を未然に防ぐようにしている。薬品や洗剤、刃物等の危険物は手の届かない場所に保管し、必要に応じ施錠を行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	消防による非難訓練の実施、救急救命講習の受講や必要な講義講習を会議等で行い、又、マニュアル等を各ユニットに設置し、日頃から定期的に学習する機会を設けることにより事故防止に取り組んでいる。又、事故は常に起こり得ることを念頭に置き、入居者の個々の状態や些細な変化も見逃さず、迅速な判断、対応を心がけている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応についてはマニュアルを作成し、各ユニットへの配置、又、職員への資料配布を行っている。又、定期的にシミュレーション訓練や高齢者介護において起こりえる急変や事故発生を学ぶ機会を設けている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防職員を招いての自衛消防訓練が年2回実施し、指導や助言を頂いている。又、ホーム内に防火管理者がおり、全体会議等で災害時のより詳しい手順などの説明がされている。その他、運営推進会議や日頃の近隣住民とのお付き合いを通じ、協力を得られる様関係作りに努めている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時や近況報告を行う際にその時々予測できうるリスクをご家族へ説明、相談を行っている。抑圧感を感じない生活を送って頂ける様に対策についてご家族と話し合い、支援に生かしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p> <p>日常的に些細な変化や異変に対しスタッフ全員で声を出し合い情報の共有、観察を行っている。変化のある場合は看護師に報告しホームドクターに相談、指示を仰ぎ受診するなどの対応が取られている。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p> <p>変更や追加があった場合は口頭の引継ぎに合わせて、申し送り簿を使用し引継ぎなどで全スタッフが確認、把握できるようにしている。処方箋はアセスメントと一緒にファイルしたり、すぐに確認できるようになっている。又、副作用による症状の変化には職員個々での判断はせず、速やかに看護師に報告し、指示を仰いでいる。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p> <p>記録により各入居者の排便状況を把握。食物繊維の多い食材、献立での食事提供、水分補給と摂取量の管理、運動、腹部マッサージ等を行い、服薬だけに頼らず可能な限り自然排便に繋げる様に取り組んでいる。排便の確認が出来ない方には居室やトイレに張り紙し工夫している。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p> <p>入居者の状態、理解に合わせてのうがい、歯磨き、義歯洗浄を行っている。又、状態に応じ紅茶等の飲み込んでよく殺菌効果のある代替品を利用し口腔ケアに努めている。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p> <p>食事量の確認が必要な入居者に関してはカロリー等も含めケアプランに載せ、毎食チェックを行い記録し、個々の健康状態、栄養状態をホームドクターと相談しながら支援を行っている。又、食事は栄養バランスを重視し品数を多くし、高齢者の好む味付けを考え提供。水分量は医師の指示の無い入居者以外が1日1300ml以上と目標を立て、本人の負担にならない様な声掛け、提供する場所や時間、形態などを変えて提供している。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p> <p>施設内での感染症対策委員会を設置し、定期的な会議を行い、意見交換、予防・対策の取り決めを行い、各職員へ周知し実行している。又、マニュアルを各ユニットに設置し、来客を含めたうがい・手洗いの励行。嘔吐・排泄物の取り扱いの注意。インフルエンザ等流行時には外出時のマスク着用や塩素系漂白剤での施設内消毒を徹底しています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食中毒マニュアルを作成し、まな板、布巾は除菌消毒を行っている。台所は整理整頓され、食材は新鮮なものを購入し、冷蔵庫は購入順に分け、無駄なく使えるようにしているが、乾物は保存方法や管理において改善が必要と思われる。</p>	○	乾物の保存方法、管理の改善を行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>木製の玄関ドアは窓の大きく開放的で、外から玄関内が見えるようになっている。玄関には家族の方から頂いた花が咲き、手書きのデザインの看板、大きなポーチを設け、玄関を開けるとオルゴールのやさしい音楽が流れている等、温かく、親しみやすい雰囲気になるように心がけている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>照明には和紙のかさを使用し柔らかい明るさになる様工夫している。玄関、廊下、リビングには季節の花や観葉植物、写真、カレンダー、雑貨を自然な形で配置し、生活感のある居心地の良い空間作りを行っている。又、雛飾りや五月人形、クリスマスツリー等を飾り季節を感じていただく様工夫している。音に対し敏感な為、不快な物音や話し声、足音に配慮している。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビング以外に1階と2階それぞれに、椅子とテーブルとを配置したゆっくりと過ごせるスペースがある他、廊下のいたる所に椅子やベンチを配置し、好きな時に好きな場所で過ごせるよう工夫している。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時に、使い慣れた家具や調度品を用意して頂く様提案、ご本人が安心して生活頂ける様な工夫や配慮を行っている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>窓の開閉や扇風機、暖房を使用し適切な換気、温度調節に努めている。特に冬季は濡れたバスタオルや加湿器で湿度を一定以上保つよう気をつけている。又、トイレ使用後などの不快な臭いは、次の使用者が気持ちよく使用できるようその都度換気、消臭を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>建物内は安全でかつ、自立した動作を行いやすい様に必要部に手すりが配置されている。自然な状態で階段も設け、自己防衛力や注意力、集中力への刺激となっている。各ドアは力が弱くても開けやすい様配慮した設計になっている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p> <p>夜間帯はトイレの場所に戸惑わず通所できる様に誘導等を設置している。又、観葉植物などの設置物も移動せず、見慣れた環境を変えない様配慮し、日々残存機能を見極め個々のわかる力を生かし、自立した生活が送れる様に創意工夫を行っている。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p> <p>敷地内にはベランダ、中庭、家庭菜園を行える畑があり、作業をしたり、季節によっては設置されているベンチやテーブルで日光浴や昼食を摂ったり、入居者個々の活動に合わせ利用している。又、中庭が遊歩道に隣接しており、入居者が遊歩道を散歩したり、散歩されている地域の方と挨拶を交わしたりと、近隣の方と触れ合うことが出来る環境にある。</p>		